

神戸の原風景

小森 星児（復興塾塾長）<s-komori@maia.eonet.ne.jp>

「日本の原風景」という表現が目につく。TV 番組でも、旅行社のパンフレットでも、棚田や茅葺屋根の写真を添えて、懐かしい心の故郷へと人びとを誘っている。また、自治体が策定している景観計画でも、しばしば保全に値する景観の例示に用いられている。実際、紙と色鉛筆を与えて被験者に原風景を描かしてみると、小川にかかる橋とか、土手を走る蒸気機関車などが画材に選ばれることが多いといわれる。

しかし、こうした人間の手が加わった景観は、原風景といえるのだろうか。原野、原生林、原産地、原状復帰などの用例を待つまでもなく、原とは元のままのという意味なので、人間の営みは含まれていないと思われる。英語の *virgin (primeval) landscape*、ドイツ語の *Urlandschaft* がそれに当たる。

しかし、現在では「幼い頃、心に刻まれた懐かしい心象風景」という意味が定着している。この用法の初出は、奥野健男『文学における原風景』（1972）だとされるので、比較的近年のことである。都市空間論の新しい地平を開拓した著者は、ここで文学者の作品を支える自己形成空間の重要性を初めて指摘した。

余談であるが、奥野さんは私とおなじ東京山の手の子育ち、私の同級生の兄であり、お父さんは八海事件無罪判決で有名な最高裁判事、ご本人はトランジスターの開発で特許庁長官賞などを受賞した技術者から文芸評論家に転じた変わり種である。したがって棚田も茅葺農家も縁がない。田舎の思い出といえば、申し訳ないが汲み取り便所とか未舗装道路が先に立つ。美しい農村の原風景を守ろうと訴える CM では、記憶の浄化作用にかこつけて都合の悪い要素は蓋されている。

それはさておき、原風景とは、幼少期に、教えられたのではなく体験によって植えつけられたイメージを指す心理学の用語「原体験」*formative experiences* の類推だと思われる。だれもが持っていることは確かであるが、きわめて主観的・個人的なもので、他人と共有するものではなさそうである。（ただし、ユング派の心理学では歴史的に蓄積された民族特有の集合的無意識を認めているが、検証は不可能である）。

それでは「兎追いしかの山」や「わたしの城下町」、「トトロの森」が引き起こすノスタルジックな感動はどこからくるのか。おそらく近代化の過程で向都離村した大都市生活者がもつ失われたコミュニティの紐帯を懐かむ故郷観に合わせて、意図的・商業的に大量生産されたものであろう。面白いことに、啄木、犀星、佐藤春夫など故郷を偲ぶ名歌は男性に多い。イエの軛を捨て出奔した女性には、帰りたい故郷はなかったのだろうか。

さて、標題に掲げたのは神戸の原風景である。この風景は子どものころに見覚えがあると感じたのは、震災の翌日、あちこちに小火が残る長田の焼け野原を横切ったときである。東灘で罹災し、身の回りの品を積み込んで当時の勤務先の姫路に向う途中、消防隊に足止めされて駒ヶ林の近くで不安な一夜を明かしたが、翌朝目にした風景は昭和 20 年 8 月 15 日に目撃した焼跡と同じであった。

戦争終結の日、私は山陽線岩国駅の駅前を横切っていた。新聞記者という職業柄、敗戦を予知した父は家族を連れて上海から日本に戻ったが、すでに東京は危険なので親戚を頼って岩国に疎開していた。ここには海軍の飛行場があり、すでに何回も空爆があったが、8 月 14 日の空襲では駅前の住宅地に 3000 発の爆弾が投下され、街は灰塵に帰した。面積当たり投下量としては過去最大で、第 2 次大戦最後の空襲であったといわれる。ポツダム宣言受諾のニュースは流れていたはずで、無意味な殺戮であったといまだに怒りを禁じえない。

ちょうど半世紀後、焦土と化した神戸の街は終戦の日の岩国の街と二重写しのように感じられた。岩国は広島以西 40 キロに当たり、私自身原爆の閃光ときのご雲を目撃したが、原風景を挙げろといわれると、やはり焼跡しか思い浮かばない。

なにもかも新しく嘘っぽい復興した街に育った子どもたちの原風景は、いったいどんな形をとるのであろうか。

神戸復興塾 15 周年記念事業報告（その 1）

森栗 茂一（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授）<morikuris@yahoo.co.jp>

新長田語り合いとプレ i ウォーク

2010 年 12 月、神戸復興塾 15 周年記念として、新長田語り合いとプレ i ウォークを、主催：神戸復興塾、神戸まちづくり研究所、後援：科研「ジェンダーと災害復興」で行った。

神戸復興塾は、当日、大津元級長の掛け声の下、図（※次頁参照／大津俊雄氏作図）のような展開で、震災一周年の東京語り部キャラバンから発足し、米国 NPO 視察を経て、田村事務局長のもと多文化共生センターひょうご事務局とのシェアのもと（特）神戸まちづくり研究所に展開している。

■ 事業者の皆様と

復興塾メンバーとの語り合い

12 月 3 日（金曜日）夕刻、神戸市立地域人材支援センター（旧二葉小学校）で 25 名余の参加を得て、「事業者の皆様と復興塾メンバーとの語り合い」が、コーディネータ 三谷@関西大のもと、大正筋商店街 上田司郎さん（前 TMO 社長）、本町筋商店街 山本豊夫さん、丸五市場 西村政之さん、新長田まちづくり会社 宍田社長、神戸復興塾 大津さん により議論された。事後、丸五市場にて懇親会が実施された。

事前のヒアリングでは、床余りのなかの巨大開

発が、地域の各層の利害対立を先鋭化しており、厳しい状況と思いきや、課題は残るものの、鉄人プロジェクトの効果や、丸五アジア屋台の展開、本町筋（再開発地区周辺）での若手の自主的な動きなど、苦しい中での前向きな取組が報告され、かけつけていただいた岩波書店の皆さんはとても感動されたようで、書籍化の話が出ました。

■ こうべ i ウォーク：プレウォーク

12 月 18 日（土曜日）15 時～ i ウォーク：プレウォーク（大国公園―新長田―御蔵）として、各方面の住民・商業者に、1 月 9 日 i ウォーク実施の御願いをして歩いた。事後、またまた二葉地域人材支援センターに戻り、16:30―19 時 復興塾とは何だったのか？座談会 大津元級長の震災後 NPO 曼荼羅を見つつ、小森先生の「復興塾とは」「続復興塾縁起」を参照し、久しぶりに見る顔も含め、15 年歳とったことを忘れるような活気のある（無邪気な）議論が展開した。

事後、少し復興塾まち研 ML が元気になり、「私の作った敵」「パブコメコメント大作戦」が展開し、この時期、結婚報告の嬉しい報告も飛び交いました。



NPO活動の経緯

年次	94	95.1 (H7)	95.7	96.1 (H8)	97.1 (H9)	98.1 (H10)	99.1 (H1)
期分類	震災前						
各期の特徴		救護・支援	組織立ち上げ	中間支援組織立ち上げ	体制整備 テーマの普遍化	脱復興のNPO活動検討	テーマ再編、自立模索
活動内容	被災者直接支援 ・生活支援 ・ボランティア的	・災害緊急支援 ・避難所支援	・仮設住宅入居支援 ・まちづくりの始動 ・被災者が活動開始	・仮設住宅生活支援 ・まちづくり計画 ・当初からの組織の脱皮	・災害公営住宅入居支援 ・NPO立案検討 ・まちづくりの完成	・恒常化への自立・自律 ・NPO申請	
テーマの設定	被災者直接支援 ・生活支援 ・ボランティア的	(外部者中心) 10000人～20000人 ボランティア日人数 ピースボート AMDA・学界・業界 SV・YMCA 医療生協・社協 95.1 週末ボランティア、西ネットワーク 95.1 がんばろう神戸 95.1 鷹取教会救援基地 95.2 地元NGO救援連絡会議	仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人	仮設住宅生活支援 600人 仮設住宅生活支援 600人 仮設住宅生活支援 600人	仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人	仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人	仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人 仮設住宅入居支援 600人
	短期専門支援 ・対象者限定 ・テーマ限定	95.1 外国人向震災放送 95.1 外国人地産情報センター 95.1 東灘・地域防犯ネットワーク 95.1 被災ベトナム人救援連絡会議 95.2 アートエイド 95.4 兵庫県定住外国人生活復興センター	95.9 震災・活動記録室 95.9 コレクティブ応援団 95.9 88計画づくり 95.10 東 白地地区まちづくりネットワーク	96.1 アジアタウン 96.2 阪神グリーンネット 96.4 尾田共同居住支援 まちコミュニケーション 96.7 まち協 96.7 東 白地地区まちづくりネットワーク	98.4 被災地NGO協働センター 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援	98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援	98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援
	中間まちづくり支援 ・地域限定 ・目的完結型	95.2 市の復興計画 95.4 都市計画決定 95.6 市の復興計画 95.5 長田まちづくり懇談会 95.5 ドングリネット 95.5 専門家で地区別 95.1 まちづくり支援ネットワーク 95.1 関西建築家ボランティア	95.9 88計画づくり 95.10 東 白地地区まちづくりネットワーク 95.10 東 白地地区まちづくりネットワーク 95.10 東 白地地区まちづくりネットワーク	96.1 アジアタウン 96.2 阪神グリーンネット 96.4 尾田共同居住支援 まちコミュニケーション 96.7 まち協 96.7 東 白地地区まちづくりネットワーク	98.4 被災地NGO協働センター 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援	98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援	98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援
	長期社会支援 ・広域対象 ・広域テーマ ・未来システム指向	95.2 市の復興計画 95.4 都市計画決定 95.6 市の復興計画 95.5 長田まちづくり懇談会 95.5 ドングリネット 95.5 専門家で地区別 95.1 まちづくり支援ネットワーク 95.1 関西建築家ボランティア	95.9 88計画づくり 95.10 東 白地地区まちづくりネットワーク 95.10 東 白地地区まちづくりネットワーク 95.10 東 白地地区まちづくりネットワーク	96.1 アジアタウン 96.2 阪神グリーンネット 96.4 尾田共同居住支援 まちコミュニケーション 96.7 まち協 96.7 東 白地地区まちづくりネットワーク	98.4 被災地NGO協働センター 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援	98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援	98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援 98.4 仮設住宅入居支援
(参考)							
行政の支援		93.7 まちづくりセンター (市)	95.7 まちづくり人材センター (市)	96.5 阪神・淡路コミュニティ基金	96.5 阪神・淡路コミュニティ基金	96.5 阪神・淡路コミュニティ基金	99.3 99.5 しみん基金・K O B E
行政の支援		95.1 市災害対策本部	95.7 被災者復興支援会議 (県)	96.10 生活復興県民ネット	96.10 生活復興県民ネット	96.10 生活復興県民ネット	99.4 被災者復興支援会議2 (県)
行政の支援			アジア祭り	市民防災フォーラム 世界鷹取祭	市民防災フォーラム 世界鷹取祭	市民防災フォーラム 市民防災計画 出版 世界鷹取祭	1.17 メモリアル こうべ1ウォーク
分析評価		・当初 3 ヶ月は学生などの外来ボランティアの力で多大なニーズを多数でこなす必要があった。 ・作業内容は避難所運営、食料配布、引越し手伝い、ガレキ撤去、病院送り等被災者ニーズに合わせて様々なことを手探りでこなした。	ライフラインの回復で自宅被災者が戻り、ボランティアが地元に着いた。 支援対象を特定し、自らの長期支援体制を固めた。	仮設住宅老健ができて、ボランティアはネットワークへ力を注ぐことが可能になった。 NPOが現場から徐々に学んだ 目的を絞った様々なNPOの立ち上げ	各NPOの情報交換、ネットワークづくりが進む (自信と不安) 活動恒常化への足元固め (人、機器、場所、資金)	NPO立案検討のなかで、自らの長期自立の可能性を追求	・満 4 年過ぎて、復興が一応完成したとされ、当初のインテリゲンチアリアーの必要性が薄れた。 ・長期活動へ向けた新しいインテリゲンチアリアーの必要が薄れた。 ・恒常的テーマと実力を備えたインテリゲンチアリアーの必要が薄れた。 ・それを総合した新コミュニティ論への期待

復興塾・まち研メンバー紹介「群像5」

群像XVII「ふじい Net」

藤井 英映（兵庫県観光振興課長）

<hideharu_fujii@pref.hyogo.lg.jp>

今回の話題は、「ふじい Net」という、ごく私的な情報交換メールで、現在、全国津々浦々、海外にもところどころ、約2,000人に配信しています。

発端は10年ほど前、社会人枠で大学院に通っているとき、メールで情報交換することが多く、時折流すお役所の情報が院生の間で重宝がられたことから、ぼちぼちと情報提供を始めましたが、口コミで受信者が増えるとともに、受信者からの情報提供もいただくようになり、いつの頃からか毎日配信になってしまいました。

また、みなさんご多忙な方ばかりで、情報量の多いメールは見えてもらえないとのことから、件名にタイトルを明記し、画面をスクロールしなくて良い量でリンク先を貼り付けるなど、一見して情報の概要がわかるようにしています。

そして、退屈しのぎに、ふじいの4行日記をつけているのですが、ここしか見ていない人も若干おられるようです。

「毎日大変ですね」とのお言葉をいただくこともあるのですが、情報交換のキーステーションをしていると、その多様な情報はもとより、新たな人のネットワークができるなど、労力以上に得るものがあるのでやめられません。

ということで、今夜もビール片手に「夜な夜なメール」配信です。



群像XVIII「私と震災」

永松 伸吾（関西大学社会安全学部）

<nagamatsu@disasterpolicy.com>

私は震災を経験していません。震災当時は東京で大学四年生。卒業後にボランティアで被災地を訪れたりしましたが、本格的に震災に関わったのは1996年4月から阪大大学院国際公共政策研究科に進学し、林敏彦先生の元で神戸の経済復興の研究に携わったのがきっかけです。当時は研究者になるつもりもなく、いわんや震災や災害と関わって生きようになるとは全く予想もしていませんでした。

その後、同大学院で助手に採用されるのですが、まもなく人と防災未来センターがオープン。災害の研究をするには大学よりも良いところだろう、とりあえず災害が自分の研究の得意分野の一つになればと思いそちらに移りました。今振り返って思うのは、あのセンターが設立されたということが震災復興のプロセスの一つだったわけで、あるときから自分も震災復興に深く関わっているのだと感じるようになりました。特に生活再建支援法の改正過程では国や兵庫県の方々ともずいぶん議論させてもらいました。その後、新潟県中越地震が発生して、その災害対応や復興支援にどっぷりと関わることになり、これも神戸に育てられた自分の使命なのだと当たり前を感じるようになりました。

現在、私は関西大学社会安全学部で災害経済学を教えています。震災の経験を学生達に伝えることも大事ですが、震災の経験を相対化することも



大事かと思ひ、最近は口蹄疫と畜産復興の研究にも手を出しています。不思議なぐらい通じ合うところがあり、震災の経験を震災の場面だけに活用するのはもったいないとも感じています。

群像ⅩⅨ「まちづくりの触媒 (catalyst) へ向かって」

松原 永季 (スタジオ・カタリスト)

<ekky@studiocatalyst.com>

スタジオ・カタリスト
を開設し、平成 22 年で、
はや 10 年が過ぎました。
自宅の一室から始まった
事務所は、やがてコレ
クティブオフィスの机
一つに移り、机二つに拡
大し、今は、長田区駒ヶ林の古民家を拠点として
います。これまで関わった「まちづくり」の事業
は、かなり変化してきており、多様で、やや混乱
したもののようにも見えます。

細街路整備事業への派遣から始まった、まちづ



くりコンサルタントとしての業務は、やがて、各地のまちづくり協議会の運営支援、住民参加の森づくりへの支援、商業施設のユニバーサル検証、準限界集落への支援、広域沿道土地利用計画、廃校となった小学校の地域による施設運営支援、市民参画による総合計画策定等々に、拡大してきました。

これら雑多にみえる業務においても、全てに共通し、私自身が意識して辿っているプロセスがあります。それは参加型の話し合いの機会をつくり、参加者の共通の課題や可能性を見つけ、折り合える合意点や、共有できる活動や目標を見出し、その実現を支援する、というものです。このことが、地域の自律性を育むことにつながると考えています。

震災後に痛感したのは、地域のまちづくりは、住民の内発性に基づくべきである、ということでした。そして地域を尊重し、その多様性を認めるならば、まちづくりのニーズは、今後も多様化し、拡大し続けるでしょう。そこで求められる職能は、自身の専門性に立脚した「ゼネラリスト」「キャタライザー」としての役割ではないかと、10 年前に考え、今もその実践を心がけています。

近 況 報 告

◎ 神戸復興塾・神戸まちづくり研究所 パブリックコメント提出 (2011 年 1 月～2 月)

兵庫県「第 8 期県民生活審議会答申素案」

兵庫県「新ひょうご男女共同参画プラン 21 (案)」

兵庫県「新しい公共支援事業」・「地域づくり活動支援事業」

神戸市「神戸市環境基本計画 (案)」

神戸市「神戸市都市計画マスタープラン (案)」

神戸市「神戸市男女共同参画計画 (第 3 次) (案)」

◎ 2010 年 4 月からプラザの名誉所長になりました

あとは室崎会員にお願いしています。また野崎 (瑠美) 会員も一緒に『兵庫県近代住宅百選 (神戸・阪神)』が出来上がりました。リストと写真は県住宅政策課の HP を参照ください。(小森星児)

兵庫県ホームページ : <http://web.pref.hyogo.jp/contents/000153053.pdf>

◎ スタジオ・カタリスト喫茶部「初駒」開店

事務所 (長田区駒ヶ林) の土間スペースに「初駒」というカタリスト喫茶部を開店することとなりました。お近くにお越しの際にお寄りいただくと幸いです。

2 月 8 日 (火) オープン、営業時間は月～木曜日の午前 10 時から午後 4 時。(松原永季)

スタジオ・カタリストホームページ : <http://www.studiocatalyst.com>

活動報告『地域支援（長田区南部と明舞団地）』

野崎 隆一（神戸まちづくり研究所理事・事務局長）<ryuichi6384@gmail.com>

■「NPO ふたば」設立支援

神戸市長田区の二葉小学校が学校の統廃合で一度は廃校になり、建物の解体売却の方針が決まっていたのですが、地元の各種地域団体の運動で一転存続となりました。まち研は、長田区役所からの委託で、メンバーでもある松原さん（スタジオカタリスト）の作業を引き継ぐ形で、地元で組織する旧二葉小学校活用検討委員会のサポートをすることになりました。活用アイデアをワークショップや会議で、さらに深める作業を行いました。その結果、長田の特色（アジア文化含む）を活かした歴史・文化保存にかかわる「食文化プロジェクト」「音文化プロジェクト」や、震災体験や教訓を語り継ぐ「修学旅行受入」などの具体的事業の構想がまとめられました。

また、神戸市が旧校舎を地域人材支援センター

として指定管理にだす方針が決定され、その受け皿組織となるNPO法人を設立することになりました。定款等の作成と申請の手続きを進めながら、指定管理のための企画提案書づくりを手伝い、無事NPO法人認証をうけることができました。指定管理者も結局公募方式にならず、随意契約となり11月19日の施設オープンにこぎつけることができました。

結果的にはすべてうまくいきましたが、まち研としては期待の新人スタッフであった寺沢君を、続く施設運営の支援のため失うことになったのは残念なことでした。また、まちづくり会館の指定管理では、施設運営実績が無いのを理由に落選したのに、他のNPOの指定管理取得を行政の委託で支援するという皮肉な巡り合わせとなりました。

■「世界団地博覧会 in 明舞～団地を楽しもう～」を実施

この事業は、明舞団地再生への関わりの一環として、一連の社会実験の継続と合わせて、平成21年度から2年間のまちのにぎわい助成（財阪神・淡路大震災復興基金）を受け実施したものです。まち研が事務局機能を担い、明舞団地まちづくり推進協議会、明舞中央商業振興会、兵庫県立大学経済学部などで構成する実行委員会を結成しました。当初予定の5月を変更し、8月7日に地元住民向けのイベントを行い、10月22～24日に本番実施しました。

8月のイベントでは、明舞団地の46年を、住民さんから提供された写真パネルで展示し、現在までの出来事を入れた大年表を貼りだしておき、展示を見た住民さんに学生達が思い出の出来事や感想をヒアリングし、それを書き込んでもらいました。

10月の本番では、国内外での団地再生事例、学

生の再生提案、明舞団地の歴史のパネルを展示。意見交換は、海外事例紹介と地区外の団地住民の参加、最後に全体総括と3つのセッションを行いました。その他、親子で遊ぼうコーナーや明舞団地探検まちあるき、商店会による当日限定メニューの販売、実際に団地の空き住戸に宿泊するお泊まりプロジェクトも実施しました。

全体に広報不足で延べ参加者が数百人とどまったのは残念でしたが、大勢の子どもたちが遊びにきてくれたことや、他の団地の住民との意見交換などが出来たことは有意義でした。このような場をより日常的に、より多くの団地住民が関われるフレームの構築が必要だと感じました。

最後に、実質的に事業準備のコア部分を手伝ってくれた、若手まちづくりコンサルタントや学生のみなさん、いろんな形で協力してくれた兵庫県、兵庫県住宅供給公社に感謝いたします。



世界団地博覧会プレイベント(8/7) 写真パネル展ヒアリング



世界団地博覧会プレイベント(8/7) 写真パネル展まとめ



世界団地博覧会(10/23) 子どもの遊び場



世界団地博覧会(10/23) 団地住民意見交換会



世界団地博覧会(10/24) 世界の団地再生事例紹介



世界団地博覧会(10/22~24) 団地再生展示コーナー



世界団地博覧会(10/23~24) 明舞団地まちあるき

写真提供：石川正氏



世界団地博覧会(10/24) 団地博覧会総括フォーラム

まち研ニュース 18号

まちづくり・法定都市計画・都市総合計画

小林 郁雄（神戸まちづくり研究所理事長）<ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp>

●まちづくりの定義

市民活動社会の基本は、コミュニティ（社区＝地域社会）を基礎単位として、そのネットワーク化された状態も含めての維持・運営・発展で、そこで繰り広げられる活動の総体を「地域における、市民による、自律的継続的な、環境改善運動」と定義している<まちづくり>である。

対比的に<法定都市計画>は「国家における、行政による、統一的連続的な、環境形成制度」ということになる。ちなみに、いわゆる「都市計画」という広義の範囲は、目標としてのマスタープランである<都市総合計画>と、都市計画法・建築基準法などの法律に基づく制度である<法定都市計画>と、市民主体・地域主権による運動である<まちづくり>の3つの方向を併せ持つべきものと私は考えている。



●相互をつなぐもの

相互にほとんど接点のない<まちづくり>と<法

定都市計画>とをなんとかつなぐものとして都市計画法にある「地区計画」が位置づけられる。同じく、何故か互いに無関係である<法定都市計画>と<都市総合計画>との間を最近になってやっと「都市計画マスタープラン」がつなぎ、市民参画によってその策定が進められることが多くなってきた。

それでは<都市総合計画>と<まちづくり>をつなぐものはなにか？「住民自治条例」がそれにあたると考えている。地域の自律自治がまちづくりの原点であるが、それらが統一的な都市の中でどのように位置づけるかが必要となろう。

●まちづくり協議会の役割

そうした<まちづくり（環境改善運動）>の鍵を握るのが「まちづくり協議会」である。逆にいえば、まちづくり協議会は自らのまちの自律圏としての活動にこそ、その存在意味をもたねばならない。阪神大震災からの復興でその意味が確かめられたまちづくり協議会が継続・発展していかなければならない理由であり、市民まちづくりに果たす責務はたいへんに大きい。

市民活動社会の市民まちづくりにおける倫理的論理的な社会基盤は「合意形成」によって創られる。まちづくり協議会は、そうした合意形成のための、住民を主体とする集まり・機会・場（フラットなプラットフォーム＝誰もが自由にアクセスでき、好きなどころに出発できる）であり、住民を中心とした自律的で連帯した市民組織である。あるいは、あるべきである。

特定非営利活動法人神戸まちづくり研究所・神戸復興塾

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1番6号 TEL: 078-230-8511 FAX: 078-230-8512

E-mail = LET07723@nifty.ne.jp Homepage = <http://www.kobe-machiken.org/>